



unesco

National Committee
of Global Geoparks

2026年4月23日

日本ジオパーク委員会

ユネスコ世界ジオパーク新規認定について

2026年4月23日（現地）、フランス・パリにて開催された第224回ユネスコ執行委員会【開催期間2026年4月8日（水）～23日（木）】において、「Mine 秋吉台」がユネスコ世界ジオパークとして認定されましたので、お知らせいたします。

ユネスコ世界ジオパークは、今回、12地域が新たに認定され、合計51か国241地域となりました。「Mine 秋吉台」は国内で11番目のユネスコ世界ジオパークとなります。

【参考】「Mine 秋吉台」のユネスコ世界ジオパークの申請から認定までの経緯

- 2024年（令和6年）6月 ユネスコに申請の意思表示
- 2024年（令和6年）11月 ユネスコに申請書を提出
- 2025年（令和7年）7月 ユネスコ派遣の審査員2名による現地審査
- 2025年（令和7年）9月 ユネスコ世界ジオパーク・カウンスルにおける審議
- 2026年（令和8年）4月 第224回ユネスコ執行委員会における決定

Mine 秋吉台ユネスコ世界ジオパークの概要は、次のページのとおり

問合先：日本ジオパーク委員会事務局（古澤）

電話：03-3219-2990

Mine 秋吉台ユネスコ世界ジオパークの概要について

1. 名称

みねあきよしだい
Mine秋吉台

2. 構成自治体

みね
美祢市（1市）

3. 面積

総面積 472.64 km²

4. 特徴

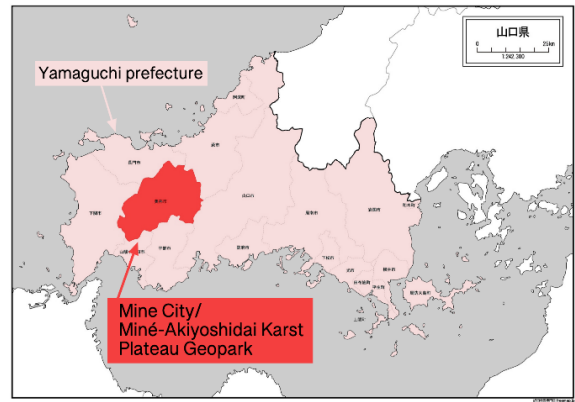
Mine 秋吉台ジオパークは、山口県美祢市全域を対象とした地域である。標高 400～700m の山地、標高 200～400m のカルスト台地、そして標高 100m 以下の谷底平野を含む盆地から構成されている。この地域は、日本最大級のカルスト台地として知られ、独特の地形景観を誇る。特に、地下に広がる秋芳洞は日本最大級の鍾乳洞として観光スポットとして人気が高い。ジオパークの代表的な遺産には、後期石炭紀からペルム紀にかけて形成された海山型の石灰岩と、それが雨水や地下水に溶けてできたカルスト地形、後期三畳紀の石炭（無煙炭）層、そして白亜紀の火成活動に伴う銅・銀鉱床の四つが挙げられる。これらの岩石や鉱床は、約 1,300 年前から採掘された鉱床をはじめ、古くから日本の歴史や社会に大きな影響を与えてきた。地域のアイデンティティとして、これらの岩石や鉱床にちなみ、「白」「黒」「赤」の三色をテーマカラーに設定し、地球の歴史と人々の暮らしをわかりやすく表現している。

秋吉台の広大な草原には、多くの草原性動植物が生息し、地下の鍾乳洞にはコウモリなどの洞窟動物が生息している。特に、洞窟動物の保護のため、秋吉台の地下水系はラムサール条約に登録されている。近年ではジオツーリズムを中心とした観光活動が盛んになり、地域経済の柱として地域の団体も地域の遺産や産業を生かした観光に積極的に取り組んでいる。

Mine 秋吉台ジオパークは、地球の未来と次代を担う子どもたちのために、「地球に寄り添い、人とつながり、未来のあり方を考え行動する社会」の実現を目指して、さまざまな活動を展開している。

Mine 秋吉台ユネスコ世界ジオパークの位置等

位置



エリアおよび地質図

